



(写真提供：茨城県観光物産課)

今月の1枚

ろっかくどう いづら 六角堂と五浦海岸

「関東の松島」としても知られる景勝地・五浦海岸は、明治時代に日本の美術思想家・岡倉天心をはじめ、多くの芸術家らが学んだ場所でもあります。五浦とは、小五浦、大五浦、椿磯、中磯、端磯の5つ浦(磯)の総称です。

この海岸に切り立つ崖の先端にある朱塗りの建物・六角堂は、日本美術を進展させ世界に広めた岡倉天心が設計し、思索にふけた場所といわれています。六角堂は、茨城大学五浦美術研究所内にあり、別名「観瀾亭[瀾(大波)を観る亭(東屋=あずまや)]」といわれ、仏堂、茶室などを兼ね備え、朱塗りの外壁と屋根に宝珠を装った六角形の建物です。背後には緑の松林、眼前には五つの浦が広がり太平洋の白波が岩礁に当たって砕け散る。その強く美しい雄大な姿は、訪れる人々に感銘を与えてきました。

2011年3月に発生した東日本大震災の津波で、六角堂は海に消えてしまいました。その後、市民や行政、大学などが一体となり、建築資材などを全国から取り寄せるなどして、2012年4月に創建当時の姿に再建。昔と変わらず北茨城を代表する名勝地となっています。また、筑波銀行が地域復興支援プロジェクト「あゆみ」の一環としてご支援させていただいた、復興支援映画「天心」の撮影ロケ地にもなっています。

五浦美術研究所の敷地内には、天心が明治36年に五浦に転居した際の旧宅や、自らが作り上げた庭園があります。そこからは、大五浦・小五浦にある大小の様々な岩礁が織りなす美しい景観を望むことができます。平成26年3月には、茨城県内初の国の登録記念物(名勝地関係・遺跡関係)に登録されました。

この夏、朱色の建物と青い海、そして白い波が織りなす「絵画のような風景」を探しに、ご家族、ご友人と一緒に北茨城市を訪れてみてはいかがでしょうか。



◆所在地：茨城県北茨城市大津町五浦 727-2
アクセス：(車)常盤自動車道 北茨城ICから約15分
(最寄駅)JR常磐線「大津港駅」より車で約5分